

P226[ルノー宛]②:《リージョナリズムの破壊》(小生解説文)・・・西歐近代(C')への「近代化適應異常」(D1の至小化)が、近代化を不十分(D1の至小化)にしたのみならず、加へて「日本文化:D1」の荒廢を齎し、その爲、リージョナリズムの背景にある「共通項としての文化(D1)的連帶感」を抹消(D1の至小化)し、日本はリージョナリズムを唯の「土著性(土地・家族的な共同體 C'への沈涵D1の至小化)」にと換骨奪胎化してしまつた、と言ふ事を意味するのではなからうか。つまり、「近代化(D1)とは様式(E)を成立たしめる基盤たるリージョナリズム(地域主義D1=文化D1的連帶感)に對して破壊的作用(D1の至小化)を意味する」(『醒めて踊れ』P395)に通じる。⇒右項分へ。

P226「日本の新劇(△粹)は田舎者(△粹)の都會化・西洋化(近代化D1)といふ文化運動に終始してきたのですが、その矛盾と苦闘に悩み疲れながら(D1の至小化)、なほも前衛、プールヴァール[Eの至小化=参照:P202「圖式的なイデオロギー(Eの至小化)や前衛的な表現形式(Eの至小化)」などを隠れ蓑(C2上位概念)にする事によつて逆に日本化、土著化(近代化適應異常:D1の至小化))の方向に向ひつつある」。即ち「Eの至小化=D1の至小化」なり。

* 以下参照文で指摘する「メカナイゼーション:F」等への不適應(Eの至小化)と同様に、このリージョナリズム(F)に對しても、「所謂近代化(潜在的言葉:F)」へのso called(Eの至大化)をなすべきを、それが出来なかつた事を意味するのである。

[参照文]*「近代化(實在物:D1)の必要條件は技術や社會制度(潜在的言葉:F)など、所謂『ハードウェア』のメカナイゼーション(F:機械化)、システムライゼーション(組織化)、コンフォーマライゼーション(劃一化)、ラショナルライゼーション(合理化)等々の所謂近代化(潜在的言葉:F)に對處する精神の政治學の確立(E)、即ち所謂『ソフトウェア』(附合ひ方E:フレイジング・so called)の適應能力(Eの至大化)にある」。

